

かいふ
開府500年を
ねん
まなぶ

No.3

たけだしさんだい 武田氏三代



たけだのぶとら
武田信虎 (1498~1574)

かいくにしゆごようみょうごろうげんぶくせいじんのぶなおのち
甲斐の国守護、幼名五郎、元服（成人）して信直、後に
のぶとらなのち
信虎を名乗る。

さいたけだけとうしゆ
わずか14歳で武田家の当主となり、在地の有力な武
士たちの反乱をことごとく押さえ、甲斐を統一する。
やかたかわださきいてんじゅうかまちかしんきよ
館を川田からつづじが崎に移転し、城下町に家臣を居
じゅうきかんどうろとうせっていけいかくできとしおこな
住させ、基幹道路等を設定して計画的な都市づくりを行
せんごくじょうかまちこうふかいそく
い、戦国城下町「甲府」を開創した。国外に進出し勢力を
かくだいちょうなんしんげんたいりつするがついほう
拡大したが、長男の信玄と対立し、駿河に追放される。

たけだしんげん
武田信玄 (1521~1573)

かいくにしゆごようみょうたろうげんぶくはるのぶぶつちんはい
甲斐の国守護、幼名太郎、元服して晴信、仏門に入つて信玄を名乗る。
ちかのぶとらするがついほうかんこうたけだけとうしゆ
父信虎を駿河に追放するクーデターを敢行し、武田家当主となる。
せんごくじだいさいきょうたけだぐんだんひきりょうごくかくだい
戦国時代最強といわれた武田軍団を率い、領国を拡大する。ライバル
えちごうえすぎけんしんしんしゅうわなかじまとかっせん
の越後上杉謙信と信州川中島で五度の合戦をする。
かまなしがわしんげんづみきずしんでんきんざんかいはつこううちうもうととの
釜無川に信玄堤を築き、新田や金山の開発をすすめ、交通網を整える
みんせいうちらうそそ
など民政に力を注いだ。
きょうとのほぐんおひょうきこうふきろとちゅうしんしゅうこま
京都へ上る軍を起こしたが、病気のため甲府への帰路の途中、信州駒
ばしほう
場で死亡。

たけだかつより
武田勝頼 (1546~1582)

しんげんたいしせんごくだけだけさいごあるじ
信玄の第4子。戦国武田家最後の主。

ははすわよりしげむすめげんぶくすわしつすわしろうかつよくな
母は諏訪頼重の娘。元服して諏訪氏を継ぎ、諏訪四郎勝頼を名乗る。
しんげんしごゆいごんちちもひたけだけつ
信玄の死後、遺言により父の喪を秘して武田家を継ぐ。

ながしのいくさあだとくがわれんごうぐんやぶしょうへいうしな
長篠の戦で織田・徳川の連合軍に敗れて、たくさんの将兵を失った。

こうさきやかたちしちりいわうえしんぼうじういてん
また、甲府のつづじが崎の館から七里が岩の上の新府城に移転するが、
じんしんしょうあくたけだしめつぼう
人心を掌握できず、武田氏は滅亡した。



たけだかつより
武田勝頼 (1546~1582)



武田信玄

